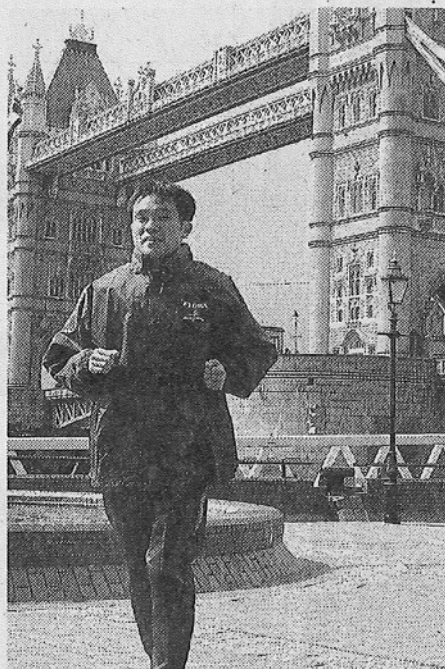


2001 年度

犬伏再起を期してロンドンへ

犬伏 孝行

(大塚製薬、城ノ内高出)



ロンドンの風景を代表するタワー・ブリッジを背に最後の調整を行う犬伏ロンドン市内

ロンドンマラソンに挑む

県人ランナー

①

途中棄権したシドニー五輪から約半年。この間を「短く感じた」というのは充実していた表れ。犬伏は五輪後のさまざまな批判や励ましをばねに、三年後のアテネ五輪を目指し、再び歩み始めている。

昨年十一月の東京・八王子の長距離記録会で「踏ん切りがついた」という。男

アテネ五輪への第一歩

五輪後初のマラソンにロンドンを選んだ理由は「世界の強豪が最も多く集まる権一回優勝のアントン(スペイン)や世界歴代5位のピント(ポルトガル)、シ

子一万円で自己記録を五年ぶりに更新する28分26秒98をマークし「まだやれると思っただ」と振り返った。五輪後初のマラソンにロンドンを選んだ理由は「世界の強豪が最も多く集まる権一回優勝のアントン(スペイン)や世界歴代5位のピント(ポルトガル)、シ

ドニー五輪で2、4位のワイナイナ(ケニア)とアラウン(英国)、ハーフマラソンの世界記録を持つテルガド(ケニア)など。2時間6分台が五人もいる。世界歴代13位の2時間6分57秒の記録を持つ犬伏

日本男子の高地練習の先駆け

は、五輪の汚名返上にも燃えながら練習を順調に消化していた。しかし、二月に左ひざを痛めて練習が十分できず、40キロ走は一度もできないまま。「量的には八十パーセントで来たが、内容的には六十パーセントしかできなかった。今回は自分がどれくらい走れるのか先が見えず、なんとか集団の中で流れに乗り、うまく走りたい」と控えめ。初めて米国コロラド州のボルダーで高地トレーニングを行い、本番に備えた。積雪のため計画していた標高一〇〇〇以上では走れなかった。野隆司(ロンドン運動部・水)



ロンドンマラソン  
出場を前に会見

シドニー後初のレース

# 犬伏・弘山再起に意欲

【ロンドン18日】水野隆司「二十三日のロンドンマラソンに出場する犬伏孝行（大塚製薬、城ノ内高出）と弘山晴美（資生堂、鳴門高一国士大出）の記者会見が十八日、ロンドン市内のプレスセンターであった。ともに不意な成績に終わったシドニー五輪後初のレース。再起を期す二人は意気込みを示した。

外国人記者の質問が集中した弘山は、昨年一月の大阪国際女子以来一年三カ月ぶりのマラソンとなるが「大阪の時より走り込みはできている。レースの流れにきちんと乗り、最後まで勝負できる走りをしたい。気楽に臨みたい」と笑顔で

通訳を挟んで、記者会見する弘山（左）と天伏（右）ロンドン市内のプレスセンター（撮影・水野隆司）

答えた。心配された、四月上旬に痛めた右足のふくはぎの回復

復員も良さそうだが「もう不安はない。いい感じでレースに臨めそうです」と語った。

一方、犬伏は二月に痛めた左ひざの回復が遅れ、渡英前は「はっきりいって調子はよくない」と話していたが、この日は「ここにきてかなり調子が上がってきたので頑張りたい」と明るい表情。初めて高地トレーニングを行ったことも記者たちに説明した。